

伯国/Petrobras向け FPSO保有・チャーター商内への出資参画について

テレフォンカンファレンス 質疑応答

1. 日時: 2018年5月14日(金) 13:30 ~14:30
2. 当社説明者: 執行役員 プロジェクト本部長 米谷佳夫
プロジェクト開発第三部長 若菜康一
IR部長 真野 雄司

【質問者1】

今回の案件は、2021年完成予定で、事業総額1500億円程度という報道だが、収益貢献のイメージや事業規模は。また、本事業は長期保有が前提で、資産リサイクルの対象とならないのか。

【回答】

【米谷】この事業は、長期の収益安定型のチャーター事業であり、操業開始直後から安定して21-22年間の操業期間にわたりほぼ一定の収益貢献が見込める。事業規模は、現在、建設中も含めて18隻あり、これらに対する総投融資額は約800億円。

今後、MODECとの協業により、毎年2隻程度の受注を目指し、引き続き優良な案件を、積み上げていきたい。

資産の入れ替えについては、常にそれを意識しながら事業を推進しているが、この1-2年は、特にブラジルを中心に新規の優良案件があり、いわば売却よりも仕込みのタイミング。まずはそれらの案件の受注に注力して、タイミングを見計らいながら古い資産も含め、アセットの入れ替えによる資産良質化をどんどん進めたい考え。

【質問者2】

MODECの強みは何か。競合他社の状況は。

【米谷】この業界はかなり大手の寡占が進んでいる。最大の競合はSBMというオランダの会社だが、MODECの強みは、ブラジルにおけるペトロブラス向け案件での実績に培われた、いわゆる超大深海における大型設備での実績と競争力。全世界で170隻の稼

働中のFPSOのうち、多くは比較的浅い海域向けの、小型のFPSO。その分野ではなかなか差別化が図ることは難しいが、MODECの場合は特に大型、大深海用に特化して差別化してきたことで競争力を強化できた。

超大深海では、MODECグループが実績でほぼトップ。よく競合するのはやはりSBM。昨今、ペトロブラス向けには、汚職の問題もあって、SBMが入札に参加できない状況が続いていたこともMODEC、当社グループに追い風になったという特殊要因もある。

【若菜】

競合の3番目以下は、ヨーロッパのBW Offshore、米国のTeekay。新興では、マレーシアのBumi Armadaと言う会社など。ただ、いずれにしても大深海の実績はほぼ限られておりMODECないしはSBMの2強に寡占されている状況。

【質問者3】

プレルトの開発の状況。今後の見通し、潜在成長は。

【米谷】ブラジルのオフショア、特にプレルトは、埋蔵量もさることながら生産コストも比較的安いので、ペトロブラスはこの開発を最優先の投資対象としている。昨年発表の5カ年計画においても最大の投資金額をこの分野に分配する計画。また、昨今、鉱区が外資にも開放され、Total、Statoil(現Equinor)といったところも積極的に参画を進めている。今回のM0にも外資が入っている。

そういった背景から、プレルトだけではないが今年はFPSOの新規入札案件だけでも、5件が既に公示されており、当社も積極的に応札して取り組んでいく方針。

プレルト層は、既に開発が随分進んでおり、埋蔵量も確認されている。

いろいろな意味で、技術的にも、商業的にも、もうprovenな鉱区であり、引き続きこの分野での生産が拡大していくのは、一過性のものではなく、かなり中長期的に続くものと考えている。

— 了 —